

がん教育プロジェクト

国民の2人に1人ががんにかかると言われている現代、Over Cancer Together (OCT)ではこれまで、サバイバーが声を上げることがを支援するサバイバー・スピーカー養成講座としての「サバイバー・スピーキング・セミナー」、その声を医療者や行政関係、一般の方等広く共有する場としてのフォーラム開催を行ってまいりました。このたびサバイバーの声を教育の場にも届けるためのプロジェクトを始動しました。

OCTでは2013年12月のサバイバーフォーラムでも、国に対し、省庁を超えた連携による学校教育などを通してがんを正しく伝えることを提案し、厚生労働省 健康局がん対策・健康増進課長より学校教育についても、「厚労省が主導ではないが文科省を応援していきたい。」とコメントをいただきました。2014年7月にはがん教育の在り方に関する検討会も設置され、がん教育推進のための準備が進められています。

CNJもその一端を担うべく、将来的には、研修を受けたサバイバー・スピーカーを登録し、がんの授業を実施しようとする学校等へ講師派遣する枠組みを作るべく準備を進めています。このたび、パイロット的に島根県にてがんの授業を行いましたのでご報告します。

第1回開催レポート ～島根県浜田私立弥栄中学校～

2015年7月3日

その第一回目として、島根県浜田市の弥栄中学校を東京大学医学部附属病院放射線科准教授中川恵一先生、日本がん・生殖医療研究会患者ネットワーク担当/子宮頸がんサバイバーの阿南里恵さんと訪問いたしました。

当日は中川先生、阿南さんのお話だけでなく、ワークもありましたが、保護者の方も参加され、PTC全員ががんの授業に熱心が伝わってきました。

授業終了後には先生方、保護者の方、県の職員の方、浜田市の教育委員会の方、校医の先生とガン教育を実施する上での懸念事項や課題について話し合いました。



ワークの様子
中川先生も保護者のグループに混じって

